

平成29年度  
配 水 池 増 設 工 事

仕 様 書

大湊村役場産業建設課

## 第1章. 適用範囲

1. 本仕様書は、「配水池増設工事」に適用する。
2. 図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、工事監督員と協議のうえ、秋田県建設交通部編「共通仕様書(土木工事編)」及び日本水道協会編「水道工事標準仕様書」に基づき施工すること。

## 第2章. 工事概要

1. 工事件名 配水池増設工事
2. 工事箇所 大潟村浄水場内
3. 工事期間 契約締結日 ～ 平成30年3月20日
4. 工事概要

(1) 配水池本体工事	SUS鋼板製配水池(V=500m <sup>3</sup> )	N=1池
(2) 配水池基礎工事	杭基礎工	N=1式
(3) 場内配管工事	φ250～φ150mm	N=1式
(4) 配水池計装工事		N=1式

## 第3章. 一般事項

1. 工事打ち合わせ等  
別に定める日、並びに監督員または請負者が必要と認める日に打ち合わせを行う。この際、協議した事項は仕様書と同等の効力を有するものとする。
2. 疑義の解釈  
請負者は設計図書の内容について疑義を生じた場合は、監督員の指示、または承諾を得るものとする。
3. 周辺施設等への配慮  
工事施工にあたって請負者は、設計図書を十分に把握すると共に、施工箇所の現地調査を実施し、既存施設等への影響（断水、施設破損等）が生じないように配慮する。
4. 工事の変更
  - 1) 現場の納まり、取り合わせなどの関係で工作物、機器、または材料などの取り付け位置、あるいは取り付け工法を多少変更するなど軽微なものでも監督員と協議の上、施工するものとする。
  - 2) 請負者は工事変更のある場合、監督員の指示に従い、関係資料を提出するものとする。
5. 関係書類の提出  
請負者は、監督員の指定する関係書類を指定する期日までに提出するものとする。
  - 1) 工事施工に必要な関係官公署への手続きは、監督員と協議の上、原則として請負者が迅速に処理するものとする。また、手数料等費用が発生する場合には監督員と協議により決定するものとする。
  - 2) 工事施工に関して関係官公署、その他交渉を要するとき、または交渉を受けたときは、遅滞なくその旨を監督員に申し出て協議するものとする。

## 第4章. 施 工 一 般

### 1. 仮 排 水

- 1) 仮排水の処理にあたっては、周囲の状況及び既設水路について事前に調査し、必要に応じ管理者の許可を得なければならない。
- 2) 施工中は、常に降雨、湧水、漏水等による滞水を生じないように施工面を整理し、適当な縦横断勾配をつけるとともに、必要に応じて仮排水施設を設け、かつ十分な通水能力を有するものでなければならない。

### 2. 一般土工（床掘、掘削等）

- 1) 掘削土は盛土、埋戻し土に流用するが、掘削の結果盛土に適合しない材質の物は、監督員の指示により捨土しなければならない。
- 2) 土砂を周囲に挽散させぬよう十分注意し、施工しなければならない。
- 3) 床掘箇所近くに崩壊または破損の恐れがある構造物等がある場合は、特に注意し悪影響を及ぼさないように処置しなければならない。
- 4) 床掘最下部を掘取の場合は、床掘最下面の土砂をかく乱しないようにすき取らなければならない。
- 5) 工事に支障のある湧水及び溜水などは、ポンプあるいは排水口を設けるなど適切な方法で排除しなければならない。
- 6) 周囲の構造物または建物等に土工機械等で損傷を与えぬように十分注意を配し、施工しなければならない。万一損傷を与えた場合は、請負側の責任において復旧及び補修するものとする。
- 7) 水道管、下水道、ガス管、N T T ケーブル等の地下埋設物については事前に調査し、必要に応じて試掘または立会い確認を行うものとする。

### 3. 仮置及び残土処分

- 1) 掘削及び床掘土砂を埋戻しに流用する場合、その他現場付近に一時仮置きが必要な時は、降雨による流出、風による飛散の生じないように措置するとともに、常に付近を清掃して生活環境の保全に努めなければならない。  
また、残土捨場については、監督員との協議及び承認の上で残土処理する。

## 第5章. 配水池増設工事

### 1. 構 造 概 要

配水池本体については、以下に示す仕様と同等以上のものとし、監督員に承認図（構造計算書添付）を提出し、承認を得るものとする。

#### 1) 形 式

ステンレス鋼板製配水池（パネル式）

有効容量  $V=500\text{m}^3$ （1池式）、 $11.0\text{m} \times 20.0\text{m} \times 3.0\text{mH}$ （有効水深 $2.3\text{m}$ ）

#### 2) 構 造

①耐震設計レベル2仕様とする。

②配水池本体は、成型したステンレスパネルをステンレス溶接（T I G 溶接）にて行う全溶接構造する。

③配水池内部の気相部に使用するステンレス材（パネル材、補強材、配管材、マンホール蓋等）は、SUS329J4Lとする。

#### 3) 本体材料

底 板	3.0t、6.0t	SUS444
側板 1段目	2.0t	SUS444

側板 2段目	2.0t	SUS444
側板 3段目	1.5t	SUS329J4L
天井板	1.5t	SUS329J4L

※使用材料は、「JIS G 4305 冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」及び、「JIS G 4304 熱間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」による他、ミルメーカー発行の材料証明書を添付できるものとする。

#### 4) 付帯設備

流入管	: 250A (上水F)	SUS304TP sch10／上水F	SUS304
流出管	: 250A (上水F)	SUS304TP sch10／上水F	SUS304
排水管	: 150A (上水F)	SUS304TP sch10／上水F	SUS304
越流管	: 150A (上水F)	SUS329J4L、SUS316TP sch10／上水F	SUS316
人孔蓋	: φ 600	SUS329J4L	
点検孔	: φ 600	SUS329J4L	
通気口	: 100A (防虫網付)	SUS329J4L	
内梯子	: W330	SUS329J4L、SUS444	
平行階段	: W1000	SUS304	
手摺り	: H=1100	SUS304	
ひさし	: W=150	SUS444	
天井歩廊	: W600	SUS304	
水位計口	: 100A	SUS329J4L	
電極口	: 100A	SUS329J4L	

## 2. 施 工 一 般

### 1) 配水池水位標高

配水池水位は既設配水池水位と同一とするため、施工前に水位標高を実測の上、施工すること。

### 2) 溶 接

配水池の溶接作業に当たっては、原則として「JIS Z 3821(ステンレス鋼溶接技術検定における試験方法及び判定基準)」による技量試験に合格した者とし、天候等にも留意の上、細心の注意をはらい溶接作業を行うこととする。

### 3) ステンレスパネルの組立て

ステンレスパネルの現地組立ては、傷が付かないよう入念に行うとともに、水平及び垂直面の確認に留意し施工する。また、ステンレス溶接部は、不動態化处理(酸洗い)等を行うこととする。

### 4) 稼働施設中施設への影響

施工中においては、稼働している既設配水池、埋設配管等に対して支障を来すことの無いように十分配慮の上、施工すること。

### 5) 基礎地盤

掘進の結果、配水池基礎地盤の土質状況が設計図書と著しく異なった場合には、監督員と協議することとする。

## 3. 試 験 等

配水池本体施工では下記試験等を実施し、ステンレスパネル溶接が確実に施工されていることを確認する。

### 1) 発泡漏れ試験

#### ①真空法

透明な窓のある真空箱を底版溶接線上に載せ、真空箱の中を真空にし、溶接線漏れ箇所

所を溶接面の表面に塗布した発泡液の泡の形成状況にて検知する。

②加圧法

側板溶接部の反対側に気体で圧力を加え、溶接面へ通過する気体の漏れ及び箇所を側板溶接面の表面に塗布した発泡液の泡の形成状況や気体噴出状況にて検知する。

2) 水張試験（満水試験）

配水池完成後、天井部まで水を満水に張り一定時間放置後、漏水が無い事を確認する。  
水張時間と現地立合い確認については、監督員と協議により決定する。

3) 試運転調整

主要工事完成後、水道施設の確実・円滑な運転確認を行うため、試運転調整を行うこととする。試運転期間や調整事項等については、監督員と協議により決定する。